《開幕》ロン・ミュエク

2026年4月29日(水・祝)ー9月23日(水・祝)　森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

森美術館とカルティエ現代美術財団は、2026年4月29日(水・祝)から9月23日(水・祝)まで、「ロン・ミュエク」展を開催します。

ロン・ミュエク(1958年オーストラリア生まれ、英国在住)は、革新的な素材や技法、表現方法を用いて具象彫刻の可能性を押し広げてきた現代美術作家です。人間を綿密に観察し、哲学的な思索を重ねて制作されたミュエクの作品は、洗練され、生命感に溢れ、孤独、脆さや弱さ、不安、回復力といった人間の内面的な感情や体験を巧みに表現しています。ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで開催された「センセーション:サーチ・コレクションのヤング・ブリティッシュ・アーティスト」展(1997年)への参加で注目を集めて以来、世界各地で個展を開催してきました。日本では、2008年に金沢21世紀美術館で回顧展が開催されて以来、2度目の個展になります。

実際の人物よりもはるかに大きく、あるいは小さく造られるその彫刻は、私たちの知覚に対する先入観への挑戦でもあります。同時に、実際に存在していそうであるというリアリティに肉迫する一方で、鑑賞者一人ひとりの解釈や思索を促す曖昧さも残しています。神秘的でありながら圧倒的な存在感を放ち、私たちと身体との関係、そして存在そのものとの関係を問いかけます。

本展は、作家とカルティエ現代美術財団との長きにわたる関係性によって企画されたもので、2023年パリの同財団での開催を起点とし、ミラノとソウルを経て、森美術館で開催されます。大型作品《マス》(2016-2017年)など作家の主要作品を中心に初期の代表作から近作まで11点を展示し、作品の発展の軌跡を深く洞察します。そのうち6点は日本初公開で、特に初期の代表作《エンジェル》(1997年)の出展はまたとない機会になるでしょう。また、フランスの写真家・映画監督のゴーティエ・ドゥブロンドによる、作家のスタジオと制作過程を記録した貴重な写真作品と映像作品も併せて公開し、ミュエクの比類なき彫刻がどのように生み出されるのかを明らかにします。

《マス》　2016-2017年　合成ポリマー塗料、ファイバーグラス　サイズ可変
所蔵:ビクトリア国立美術館(メルボルン)、2018年フェルトン遺贈
展示風景:「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影:ナム・キヨン　画像提供:カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局(共同ピーアール内):幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田)　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

略歴

1958年オーストラリア、メルボルン生まれ、1986年より英国在住。映画・広告業界で20年以上働いた後、1990年代半ばに彫刻の制作を開始。1996年、ロンドンのヘイワード・ギャラリーで開催された展覧会で、ポルトガル人画家パウラ・レゴの絵画と共に彼の彫刻《ピノキオ》(1996年)が展示され現代美術界にデビュー。翌年、他界した父親を小さく表現した《死んだ父》(1996-1997年)が、同地のロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで開催された「センセーション:サーチ・コレクションのヤング・ブリティッシュ・アーティスト」展に出品され注目を集める。以来、ミュエクは世界各地の権威ある美術館で作品を発表。近年ではソウルやオランダのハーグ、直近では2025年12月から2026年4月12日かけてシドニーにて個展を開催した。日本では、十和田市現代美術館に《スタンディング・ウーマン》(2007年)が常設展示されている。一作品を制作するために数ヵ月、時には数年を要することもあり、過去30年間に制作された作品総数は50点程しかない。

カルティエ現代美術財団

カルティエ現代美術財団は芸術的対話と実験の場であり、アーティストとの緊密な協働による創作と展示を両輪に据えて活動を行っています。
1984年に当時のカルティエのプレジデントだったアラン＝ドミニク・ペランによって設立された財団は、分野やジャンルを隔てる壁を越えて、あらゆる領域からアーティストを迎え展示してきました。長年にわたり革新的かつ国際色豊かなプログラムを通して築かれた所蔵コレクションは、分野にとらわれない財団の本質と、同時代の問題をダイレクトにとらえたテーマの幅広さを反映しています。
カルティエ現代美術財団の活動とコミットメントは、人々が現代アートに触れる機会を限りなく広げたいという強い思いと志に根ざしています。展覧会プロジェクトをはじめ、イベントやディベート、ライブパフォーマンスや講演といったプログラムを通して、文化施設の架け橋となり、多文化間の対話の場を創出してきました。
世界を代表する建築家ジャン・ヌーヴェルの設計による、パリ パレロワイヤル広場2番地に構えた展示空間を新たな拠点として、カルティエ現代美術財団は、アーティストや来訪者とともに、アートの新たな捉え方を探求し、共有していきます。

開催概要

展覧会名:ロン・ミュエク
主催:森美術館、カルティエ現代美術財団
特別後援:オーストラリア大使館
助成:ブリティッシュ・カウンシル
協賛:株式会社大林組、鹿島建設株式会社
企画:近藤健一(森美術館アジャンクト・キュレーター)、チャーリー・クラーク(本展アソシエイト・キュレーター)、
キアラ・アグラディ(カルティエ現代美術財団キュレーター)
会期:2026年4月29日(水・祝)－9月23日(水・祝)
会場:森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)
開催時間:10:00-22:00(火曜日のみ17:00まで、ただし5月5日[火・祝]、8月11日[火・祝]、9月22日[火・祝]は22:00まで)
＊入館は閉館時間の30分前まで　＊会期中無休

入館料:

	[平日]		[土・日・休日]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,300円	2,100円	2,500円	2,300円
学生(高校・大学生)	1,400円	1,300円	1,500円	1,400円
中学生以下	無料			
シニア(65歳以上)	2,000円	1,800円	2,200円	2,000円

＊表示料金は消費税込。
＊事前予約制(日時指定券)を導入しています。各種オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。
オンラインチケット販売サイト:森美術館オンラインチケット、Trip.com、Klook、ART PASSほか
＊当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。
＊本展のチケットで、同時開催小プログラムもご鑑賞いただけます。

一般のお問い合わせ:Tel:050-5541-8600(ハローダイヤル)　森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局(共同ピーアール内):幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田)　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

本展の特徴

2023年にパリのカルティエ現代美術財団で開催され、大きな話題を呼んだ「ロン・ミュエク」展。ミラノ、ソウルへの巡回を経て、いよいよ東京で開催

ロン・ミュエクとカルティエ現代美術財団との長きにわたる関係性により企画された本展は、2023年の同財団での開催を皮切りに、ミラノ（2023-2024年）、ソウル（2025年）へ巡回し、東京では、森美術館とカルティエ現代美術財団の共催により実施されます。日本では東京のみでの開催となります。

寡作の作家ミュエクの作品を網羅的に紹介する、日本では18年ぶりの大規模個展 出展作品の多数が日本初公開

本展は、初期作品から近作に至るまで、作家の制作活動全体を包括的に紹介する大規模な展覧会です。出展作品の多くは日本初公開となります。総作品数が50点程しかないミュエクの彫刻作品を多数集めて個展を開催することは困難であり、11点もの作品を展示する本展は貴重な機会となります。日本での個展は2008年以来となり、これほど多くの作品を展示するのは今回が初の試みです。

大型作品《マス》（2016-2017年）を日本初公開

本展の中心をなすのは、巨大な頭蓋骨の彫刻100点で構成されるインスタレーション《マス》（2016-2017年）です。本作はオーストラリアのメルボルンで開催されたNGVトリエンナーレ 2017で初公開され、その後フランス、イタリア、オランダ、そして直近では韓国で展示されました。展示の際は毎回、美術館の展示室の構造や特性に合わせて再構成され、森美術館でも約300㎡にわたるサイトスペシフィックな展示となります。

鑑賞者一人ひとりの感情を喚起する精緻に表現された彫刻

ミュエクは人間を綿密に観察し、哲学的な思索を重ねて、精緻な技法を用いて彫刻を制作します。洗練され、生命感に溢れ、孤独、脆さや弱さ、不安、回復力といった人間の内面的な感情や体験を巧みに表現した作品は、私たち誰をも魅了し、人間とはなにか、生きるとはどういうことか、という問いを考察する旅へと誘います。

めったに見ることができない制作の舞台裏を公開

フランスの写真家ゴーティエ・ドゥブロンドが制作した写真シリーズと映像2点も展示されます。ドゥブロンドは25年以上にわたってミュエクの制作過程を記録しており、ロンドンと英国南部にあるミュエクのスタジオや、創作プロセスの貴重な舞台裏を垣間見ることができます。

ゴーティエ・ドゥブロンド
《チキン／マン》
2019-2025年
ハイビジョン・ビデオ
13分

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

主な展示作品 ＊アルファベット順

《エンジェル》 日本初公開

背中に大きな翼を持つ男性がスツールに腰かけている本作は、ミュエクの初期の代表作です。作家が脚光を浴びるきっかけとなった「センセーション：サーチ・コレクションのヤング・ブリティッシュ・アーティスト」展（1997年）のニューヨーク巡回（ブルックリン美術館、1999-2000年）でも展示されました。作家は18世紀のイタリアの画家ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロによる《ヴィーナスと時間の寓意》（1754-1758年頃）をロンドンのナショナル・ギャラリーで目にし、本作を制作しました。原作の中でヴィーナスと共に描かれるのは「時間」を表す翼を持つ年老いた男性ですが、ミュエクはこの人物像に着想を得ています。本作で表現する男性は人間の体と比較すると小さく、俯いてどこか悲しげに物思いにふけっており、一般的な天使のイメージとは異なっています。

《エンジェル》
1997年
ミクストメディア
110 × 87 × 81 cm
個人蔵
画像提供：アンソニー・ドフェイ（ロンドン）

《チキン／マン》 日本初公開

本作では下着姿の老人がテーブルの前に座り、一羽の鶏と対峙するという奇妙な光景が表現されています。彼らは無言ですが、緊張した関係が感じられます。前のめりになった老人は手を握りしめ、わずかに口を開き、困惑し警戒心をあらわにしています。一方、鶏は静止したまま鋭い視線を向け、いつでも逃げ出せる準備をしているかのようにも見えます。しかし、一体何が起きているのかは謎に包まれ、私たちの想像力を掻き立てます。作品のスケールは実際のものよりも小さく、それによって鑑賞者を作品世界により深く引き込む効果を生み出しています。

ニュージーランドのクライストチャーチ・アートギャラリーのためにつくられた本作ですが、本展ではその制作に関する同名の映像も展示します。

《チキン／マン》
2019年
ミクストメディア
86 × 140 × 80 cm
所蔵：クライストチャーチ・アートギャラリー／テ・プナ・オ・ワイウェトゥ（ニュージーランド）
Purchased 2019 by Christchurch Art Gallery Foundation with assistance from Catherine and David Boyer, Friends of Christchurch Art Gallery Te Puna o Waiwhetū, Charlotte and Marcel Gray, Ben Gough Family Foundation, Jenny and Andrew Smith, Gabrielle Tasman and Ken Lawn, Christchurch Art Gallery Foundation's London Club along with 514 other generous individuals and companies.
展示風景：「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影：ナム・キヨン
画像提供：カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

《ダーク・プレイス》 日本初公開

中年男性の頭部が暗闇の中に浮かび上がっています。ミュエクは照明によって作品の感情的な特質を強調しますが、本作では彫刻を包み込む暗闇が作品の一部となっています。鑑賞者が近づき、暗い入口に入ると、この静寂な闇に包まれ、男性の内面世界に引き込まれていきます。しかし、鑑賞者は入口に留まるしかなく、彫刻の周囲を歩き回ることはできません。そうすることで、作家は私たちに表面のディテールではなく感情の深みを探求するよう誘うのです。

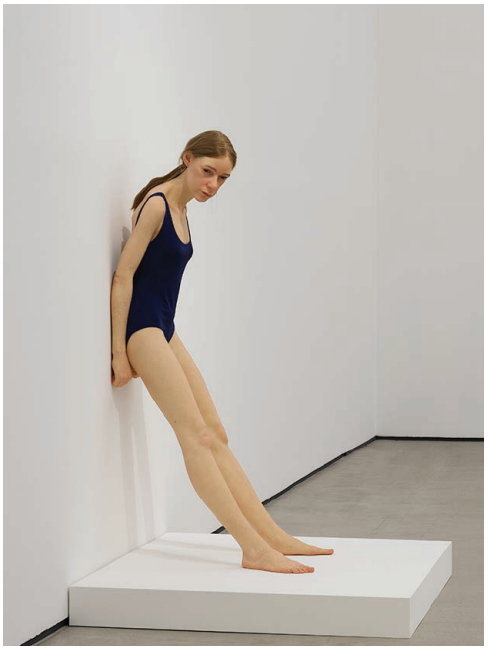
当初、ミュエクは吊り下げられた大作の《マスク》(1997年)と眠っている自身を描いた《マスクII》(2002年)(本展出展作)に続くものとして、本作でも自画像を制作することを構想していました。しかし制作の参考写真を撮るため、ある男性が作家のスタジオに来たとき、ミュエクは彼の顔に浮かぶ苦悩の激しさに深く心を動かされました。その結果、彼を主題とすることに変更して本作を制作したという逸話があります。

《ダーク・プレイス》
2018年
ミクストメディア
140 × 90 × 75 cm
所蔵:ZAMU(アムステルダム)
展示風景:「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影:ナム・キヨン
画像提供:カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

《ゴースト》

水着を着た10代の女性が本作の主題です。壁にもたれかかり、両腕を体の横に垂らし、拳を握りしめ、頭を前に傾けて横を向き、鑑賞者の視線を避けています。思春期を迎えて自意識が芽生えた多感な少女は、急速に変化する心身に恥ずかしさと気まずさの両方を感じ、戸惑いを隠せません。表情からは彼女が非常に内気であることが読み取れ、少し怯えているようにすら見えます。身長は約2メートルと等身大の人間よりも大きく、脚は極端に細長く、足も実際の人間のものとは思えないほど大きく造形されており、鑑賞者に違和感を抱かせます。本物の人間なのかどうかとさえ思えてきます。まさに「ゴースト」なのです。

本作は最初に1998年に制作され、その後まもなくロンドンのテートに収蔵されました。本展で展示されるのは2014年に改めて制作されたアーティスト・プルーフで、ミュエクが同じテーマを改めて追求し、新たに型を起こしてゼロから作られました。二つのバージョンが制作された動機は同じですが、ディテールや表情はかなり異なっており、それでいて込められた思いは共通しています。



《ゴースト》
1998/2014年
ミクストメディア
202 × 65 × 99 cm
所蔵:ヤゲオ財団コレクション(台湾)
展示風景:「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影:ナム・キヨン
画像提供:カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

お問い合わせ 「ロン・ミュエク」展 広報事務局(共同ピーアール内):幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田) E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

《イン・ベッド》

巨大な中年女性がベッドに横たわっている本作は、長さ6.5メートル、幅約4メートルの大型作品です。平凡な日常のひとこまですが、彼女が手であごを支え、上方を見つめる表情は、不安や憧れ、物思いなど、さまざまな解釈を誘います。モニュメントのようでもある作品のスケール感に驚かされますが、鑑賞者は目線の高さに位置する女性の顔をまじまじと見つめ、彼女が何を考えているのか思いを巡らすことになります。また、空虚に部屋の向こうを見つめるその視界に私たちが入ることは決してありません。鑑賞者は女性と向き合うことなく作品の細部を凝視することも可能であり、人間同士の関係とは異なる作品と鑑賞者の関係性が生まれるのです。

本作は東京都現代美術館で開催された「カルティエ現代美術財団コレクション展」(2006年)で展示され、作品の画像がその展覧会のキービジュアルに使用されたこともあり、日本でも知られた作品です。

《イン・ベッド》
2005年
ミクストメディア
162×650×395 cm
所蔵:カルティエ現代美術財団
展示風景:「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影:ナム・キヨン
画像提供:カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

《舟の中の男》

中年男性が、全裸で古びたボートの船首に座っています。オールを持たず、どこかほかの場所から漂流してきたことは明らかですが、なぜ裸なのか、どこに向かっているのかは謎です。私たちが彼の世界に漂い込んだのでしょうか、あるいは彼が私たちの世界に漂い込んできたのでしょうか。船体は男を隔離する境界をつくり出し、彼は私たちと同じ空間にいるのに、 私たちにはその航海を止めることも、前方にあるものを見ようと首を伸ばす男性の注意を引くこともできません。彼は不安に駆られていますが、同時に人生の旅がおのずと進んでいくという気配も漂います。

2000～2002年にミュエクは、ロンドンのナショナル・ギャラリーで同館の収蔵品を綿密に調査することができる「アソシエイト・アーティスト」を務めました。この時期のミュエクの作品には「誕生」と「母性」というテーマが色濃く表れており、おそらくそこで出会った巨匠たちの作品の影響によるものでしょう。同館で鑑賞したディエゴ・ベラスケスの絵画《無原罪の御宿り》(1618-1619年) には小さな船が描かれており、ミュエクはそれがキリストを宿す聖母を船に喩えて象徴していることを発見して喜び、作品に取り入れました。

《舟の中の男》
2002年
ミクストメディア
159 × 138 × 425.5 cm
個人蔵
展示風景:「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影:ナム・キヨン
画像提供:カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局(共同ピーアール内):幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234(幡井)、080-2573-6816(上田)　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

《マスクⅡ》

本作は、眠りに落ちた作家自身の顔を約4倍の大きさで表現した作品です。作品は台座に載せられており、顔が弛んで見え、わずかに開いた口から息が漏れる音が聞こえてきそうです。しかし、作品の背面は空洞で、この男性が存在しているのか、そうでないのか、という問いを投げかけます。同様に、本当の仮面であれば顔は弛むはずはなく、この顔は人間なのか仮面なのかという疑問も生じます。本作はミュエクの作品の特徴である現実と非現実の絶妙なバランスを見せる、典型的な作品といえるでしょう。タイトルは、本作が文字通りマスク（仮面）である、という事実を単に示しているのか。あるいは、自身の顔立ちの特徴をリアルに捉えた実像のようでありながら、所詮、作家が作り上げた虚構の自己像に過ぎないということを暗に示しているのかもしれません。

《マスクⅡ》
2002年
ミクストメディア
77 × 118 × 85 cm
個人蔵
展示風景：「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影：ナム・キヨン
画像提供：カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

《マス》 日本初公開

本作は巨大な頭蓋骨の彫刻100点で構成されており、作家はそれぞれの美術館の展示空間にあわせたインスタレーションを作り上げています。オーストラリアのメルボルンで2017年に発表されて以来、展示会場ごとに異なる形で展開された本作には常に新しい発見がありますが、森美術館での展示も同様に、ここでしか見ることのできないものとなります。鑑賞者は頭蓋骨自体の形状の複雑さを目の当たりにすると同時に、時間をかけて作品の中を歩き回る間に頭蓋骨の圧倒的な存在感について考えさせられるのです。

この頭蓋骨という主題は、「メメント・モリ」（Memento Mori、死を忘れるな）というラテン語起源の思想とともに、西洋美術史の中では繰り返し登場してきました。また、医学や解剖学、考古学なども想起させ、現代のポピュラーカルチャーでもしばしば用いられるなど、普遍的なものです。タイトルの「マス（Mass）」は、山のように積み重なったもの、大量のものや集団、カトリック教会のミサなど、さまざまな意味があります。本作は頭蓋骨それぞれの色合いとディテールが異なっており、個々人の集合体であることを示唆しています。しかし、彼らが誰なのかを知る手がかりはなく、集団として私たちに迫ってくるのです。

人間の頭蓋骨は多義的な物体である。私たちがすぐにそれだと分かる、力強く鮮烈なアイコン。見慣れたものでありながら奇異でもあり、私たちは拒絶しつつも、同時に惹きつけられる。無視することはできず、無意識のうちに私たちは注意を向けてしまうのである。

――ロン・ミュエク

《マス》
2016-2017年
合成ポリマー塗料、ファイバーグラス
サイズ可変
所蔵：ビクトリア国立美術館（メルボルン）、2018年フェルトン遺贈
展示風景：「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影：ナム・キヨン
画像提供：カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

《買い物中の女》 日本初公開

本作では、一人の母親が描かれています。両手は重い買い物袋で塞がり、コートの懐には赤ん坊を抱えています。その姿は美化されることなく、疲れ果てた表情からは、日々の責任の重さで押しつぶされそうになっている彼女の日常が読み取れます。原寸よりも小さく造られ、母親の疲労感や脆さや弱さが強調されています。また、遠くを見つめる母親の視線は赤ん坊とも鑑賞者とも合うことはありません。

本作は、西洋美術史の定番である「聖母子像」の現代的な解釈かもしれません。しかし、実際は、作家がロンドン北部のスタジオ近くの交差点で信号待ちをするオレンジ色の買い物袋を持ち赤ん坊を抱えた母親の姿を目にし、駐車券の裏にスケッチしたことがきっかけで制作されました。ミュエクは大都市の日常の中にある切ない光景を表現しています。

《買い物中の女》
2013年
ミクストメディア
113 × 46 × 30 cm
所蔵：タデウス・ロパック（ロンドン・パリ・ザルツブルク・ミラノ・ソウル）
展示風景：「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影：ナム・キヨン
画像提供：カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

《枝を持つ女》 日本初公開

裸の女性が、大きくて持ちにくい木の枝の束をなんとか抱えようとしています。しかし、枝は束ねられることを拒んでいるかのようです。どこかおとぎ話や民話を思わせる光景です。髪を振り乱し、体には引っかき傷があり、枝が地面を引きずらないよう体を反らせています。

なぜ裸なのか、どういう目的があるのか。こうした素朴な疑問に答えは与えられていません。ミュエクは、作品においてしばしば奇妙でシュールな状況をつくり出します。物語性にあふれながらも、意図的に意味を曖昧なままにすることで、鑑賞者がそれぞれの物語を紡ぐよう誘うのです。

《枝を持つ女》
2009年
ミクストメディア
170 × 183 × 120 cm
所蔵：カルティエ現代美術財団
展示風景：「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影：ナム・キヨン
画像提供：カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

《若いカップル》

10代の男女が寄り添って立ち、少年は少女に何かを打ち明けているように見えます。一見すると、どこにでもいそうなティーンエイジャーの初々しいラブ・ストーリーの一場面のようでもあります。しかし、背後で、彼は彼女の手を握っているのではなく手首を無理やりつかんでいるように見えることがわかると、二人の間にどのような力関係が働いているのかと考えさせられ、本作の見え方は一変します。ミュエクのほかの作品と同様に物語は曖昧ですが、不穏な空気が漂います。

ミュエクの二人組の彫刻作品では、鑑賞者はその二人の関係性に第三者として引き込まれます。本作でこのカップルは身長1メートルにも満たない大きさで表現されており、スケールの縮小によってその効果は高められます。大人の鑑賞者であれば、彼らの兄姉や親のような立場になって、この小さなカップルの運命を見守りたい、もしくは少女を助けるために何かしなければ、と思うかもしれません。そして鑑賞者が若ければ、身近な人との関係の複雑さを実感するかもしれません。

《若いカップル》
2013年
ミクストメディア
89 × 43 × 23 cm
所蔵：ヤゲオ財団コレクション（台湾）
展示風景：「ロン・ミュエク」韓国国立現代美術館ソウル館、2025年
撮影：ナム・キヨン
画像提供：カルティエ現代美術財団、韓国国立現代美術館

最新のプレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。
https://rjpb.f.msgs.jp/n/form/rjpb/Ay5rs5x8wcCKNTukbaEVY

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

展覧会関連プログラム

トークセッション「ロン・ミュエクを紐解く」

※日英同時通訳、手話同時通訳付

展覧会開幕を記念し、本展に携わったキュレーターによるトークを開催します。本展の中心をなす、大型インスタレーション作品《マス》を軸に、ミュエクの初期から現在までの創作の軌跡をたどります。

出演：チャーリー・クラーク（本展アソシエイト・キュレーター）
キアラ・アグラディ（カルティエ現代美術財団キュレーター）
モデレーター：近藤健一（森美術館アジャンクト・キュレーター）
日時：2026年4月29日（水・祝）15:00-17:00
会場：森美術館ラーニング・ルーム
定員：70名（要予約、先着順）　**料金**：無料（ただし、当日有効の森美術館の展覧会チケットが必要です）
お申し込み：受付は終了しました。

パフォーマンス「Quotient クオシェント」

ダンスと音楽を通じ、ミュエク作品の鑑賞体験を多層的に拡張するパフォーマンスを行います。ある数を別の数で割った結果である「商」を意味するタイトルは、彫刻とパフォーマンス、あるいは出演者ふたりのあいだに生まれる相関を象徴しています。彫刻の精緻な描写と多様なスケール感が揺さぶる知覚や感情の動きをパフォーマンスによって表現し、鑑賞者が作品と身体の関係、さらには自己の存在そのものを捉え直す契機となることを目指します。

出演：ハラサオリ（ダンスアーティスト）
松丸 契（音楽家）
日時：2026年6月23日（火）19:00-
会場：森美術館展示室内
定員：50名（要予約、先着順）　**料金**：3,000円（展覧会チケット料金を含む）
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum

おやこでアート ファミリーアワー

開館前の美術館を貸し切り、小さなお子さま連れの方も安心して、ゆったりと展覧会を鑑賞いただけるプログラムです。ファミリーで楽しめるギャラリーツアーや、絵本の読み聞かせを取り入れたパフォーマンスも実施します。

日時：第1回　2026年7月18日（土）9:15-10:30
第2回　2026年8月26日（水）9:15-10:30
対象：未就学児、小学生（0-12歳）とそのご家族、現在妊娠中の方とそのご家族
会場：森美術館展示室内
定員：各回80組（要予約、先着順）　**料金**：無料
協賛：株式会社大林組
協力：ニジノ絵本屋
申込開始日：2026年6月10日（水）
お申し込み：森美術館ウェブサイト　www.mori.art.museum

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

▌キッズワークショップ「大きなマスクで『わたし』をつたえよう」

ミュエクの作品《マスクⅡ》から発想を広げ、参加者一人ひとりが自分自身を表現するマスクを制作します。好きなことや苦手なことなど、自分らしさについて考えを巡らせながら、さまざまな顔を持つ「わたし」をかたちづくり、装飾していきます。本来は表情を隠すはずのマスクが、その人らしさを伝える表現へと変わる創作を体験します。

講師：尾花賢一（アーティスト）
日時：第1回　2026年7月30日（木）14:00-16:30
　　第2回　2026年7月31日（金）14:00-16:30
対象：小学生
会場：森美術館ラーニング・ルーム
定員：各回10名（要予約、抽選）
料金：2,000円（材料費、保護者1名分の展覧会チケット料金を含みます）
申込開始日：2026年6月10日（水）
お申し込み：森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

＊このほかにも、ギャラリートークやアクセスプログラム、スクールプログラムなど、さまざまな企画を予定しています。プログラムの詳細やお申し込みなどの最新情報は、森美術館ウェブサイトにてご確認ください。　www.mori.art.museum

プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 ラーニング担当
E-mail: mam-learning@mori.co.jp

関連情報

▌展覧会カタログ

ロン・ミュエクの言葉やゴーティエ・ドゥブロンドのインタビュー、近藤健一（森美術館アジャンクト・キュレーター）によるエッセイを収録。あわせて、出展作品の解説や参考作品図版、過去の展示風景やキービジュアルを多数収め、作家の歩みを紹介するビジュアル年表などを掲載。

サイズ：A4変型判（28.2×21cm）　**ページ数**：152ページ　**言語**：日英バイリンガル
価格：2,970円（税込）　**発売日**：2026年4月29日（水・祝）
編著：森美術館　**発行**：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 美術出版社書籍編集部
販売場所：森美術館 ショップ 53（六本木ヒルズ森タワー53階）、森美術館 ショップ（六本木ヒルズウェストウォーク3階）、森美術館オンラインショップ

▌AI音声ガイド

本展では、AIを搭載した次世代の美術館体験プラットフォーム「artlas（アートラス）」の音声ガイドをご用意しています。artlasのAIガイドは、利用する方の年齢や興味、言語（日本語、英語、中国語を含む、20 以上の言語に対応）、ご希望の鑑賞時間に応じて、作品解説だけでなく、おすすめの鑑賞ルートもご案内。鑑賞者の質問にも専門知識でお答えし、よりパーソナライズされた鑑賞体験をご提供します。
＊ご利用には、ご自身のスマートフォンまたはタブレットに、アプリのダウンロードとアカウント登録が必要です。事前のダウンロードをおすすめします。

料金：500円（アプリ内決済）　**企画・制作**：artlas　**技術協力**：Claude　**監修**：森美術館
artlasウェブサイト：www.artlas.art/ja

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

ジュニアガイド「詩とぬりえのノート」

詩と塗り絵を通して作品鑑賞を楽しむ、ジュニア向けの冊子を配布します。通常の作品解説ではなく、詩のことばを手がかりに、ミュエク作品の見方を広げます。自分なりの発見を書き込んだり、イラストに色を塗ったりしながら、作品とじっくり向き合うことができます。

詩：小磯洋光（詩人、翻訳家）　**イラスト**：塩川いづみ（イラストレーター）　**デザイン**：江藤公昭（パピエラボ）
掲載作品：《マスクⅡ》《イン・ベッド》《エンジェル》《マス》
配布場所：「ロン・ミュエク」展展示室入口
対象：小学生以上　**言語**：日本語／英語　**サイズ**：A5（全8ページ）

ラーニング・ルーム

展覧会鑑賞後、くつろぎながら感想を語り合ったり、絵に描いてみたり、本を手に取ってみたりと、世代を超えて自由に楽しんでいただける空間です。今回はニジノ絵本屋が本展のために選んだ絵本やジュニアガイドの塗り絵をお楽しみいただけます。

開室時間：10:00-17:00
※18:00以降は、「MAMスクリーン023」の上映に切り変わります。
※会期中の火曜日は17:00で閉室し、「MAMスクリーン023」の上映はありません（ただし、5月5日［火・祝］、8月11日［火・祝］、9月22日［火・祝］を除く）。

「ロン・ミュエク」展 × キッズスクウェア 六本木ヒルズ　託児サービス1,000円キャンペーン

子育て中の方にも鑑賞を楽しんでいただくため、「キッズスクウェア　六本木ヒルズ」の一時預かりサービス2時間を1,000円でご利用いただける割引キャンペーンを実施します。お子さまが同じ建物内にある「キッズスクウェア　六本木ヒルズ」でのびのびと過ごしている間、大人は森美術館でリフレッシュしてみませんか。

キャンペーン期間：2026年4月29日（水・祝）–9月23日（水・祝）
利用時間：9:00-18:00間の2時間のご利用
定員：毎月先着20名　**年齢**：3ヵ月～小学生
予約：Web事前予約制（ALPHAユーザーサービスのユーザー登録が必要です）
料金（1人あたり）：1,000円

【SNSキャンペーン】＃ミュエク巡り Instagram写真投稿キャンペーン開催!

本展の森美術館での開催を記念して、十和田市現代美術館と連携したInstagram写真投稿キャンペーンを実施します。十和田市現代美術館では、ミュエクによる高さ約4メートルの巨大な彫刻《スタンディング・ウーマン》が常設展示として愛されています。

森美術館で撮影したミュエク作品の写真に、ハッシュタグ「＃ミュエク巡り」を添えて投稿していただいた方の中から、抽選で「十和田市現代美術館 観覧チケット」を5組10名様にプレゼントします。

応募期間：2026年4月29日（水・祝）–6月14日（日）
応募方法：
森美術館公式Instagram（@moriartmuseum）をフォロー
森美術館「ロン・ミュエク」展会場内で撮影した作品写真に、ハッシュタグ「＃ミュエク巡り」をつけて投稿
賞品：十和田市現代美術館 観覧チケット（ペア5組・計10名様）
当選発表：2026年6月中旬以降、当選者の方へInstagramのダイレクトメッセージにてご連絡します。

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

森美術館メンバーシップ MAMC（マムシー）入会割引キャンペーン
「MAMCフレンド」（年間パスポート）と「MAMCフェロー」に入会するなら、今がチャンス!

森美術館では、メンバーシップ・プログラム「MAMC（マムシー）」をとおして、さまざまなかたちでアートを支援し、より楽しむための機会を提供しています。このたび、本展開幕を記念した、入会割引キャンペーンを期間限定で実施します。

「MAMC（マムシー）フレンド」とは

森美術館の展覧会が1年間、何度でも鑑賞でき、年3回以上のご来館でお得となる年間パスポートです。 同伴者割引や、ミュージアムショップ、ミュージアムカフェ&レストランでのご優待などの特典付きです。

「MAMC（マムシー）フェロー」とは

「もう一歩、美術館の中へ」をモットーに、同伴者1名までの無料入館、展覧会の内覧会へのご招待、メンバー限定イベントへのご招待、アーティストやキュレーターとの交流の機会など、アートを愛する方々の交流や出会いの場として特別なアート体験を提供しています。

キャンペーン価格：

「MAMCフレンド」、「MAMCフェロー」ともに特別価格でご入会いただけます。

・MAMCフレンド（年間パスポート）：5,000円（税込）※通常価格 5,500円（税込）

・MAMCフェロー：20,000円（税込）※通常価格 22,000円（税込）

※特別価格は初年度のみ適用（2年目以降は通常料金）となります。

対象期間：2026年5月1日（金）–5月17日（日）

入会方法：専用オンラインサイトよりお申込みください。 visit.mam-tcv-macg-hills.com/#membership_passport

森美術館 年間パスポート／メンバーシップ MAMC概要

	特典内容	MAMCフレンド 価格（年会費）：5,500円（税込） ※通常価格	MAMCフェロー 価格（年会費）：22,000円（税込） ※通常価格
1	森美術館への入館が1年間いつでも無料	本人無料+同伴者1名半額 （一般料金のみ対象）	本人無料+ 同伴者1名まで無料
2	ミュージアムショップでのお買い物が10%割引（一部対象外あり）	○	○
3	ミュージアムカフェ&レストランでのお会計が10%割引（一部対象外あり）	○	○
4	メンバー限定メールマガジンの配信	○	○
5	音声ガイド無料（同伴者1名分を含む）	—	○
6	各展覧会内覧会およびオープニングレセプションへご招待 （同伴者1名を含む）	—	○
7	各展覧会の招待券を進呈（各展5枚）	—	○
8	展覧会カタログ引換券を進呈（年間2枚）	—	○
9	メンバー向けのプライベートビューイングや 交流会「MAMCイベント」へご招待（同伴者1名を含む）	—	○
10	ラーニング・プログラムの無料参加またはご優待	—	○
11	更新特典（メンバーシップ更新時に、ミュージアムショップ［53階］の お買物券1,000円分をプレゼント）	—	○

有効期限：入会日から翌年前月末まで （例）2026年5月3日入会の場合、2027年4月30日まで有効

詳細：www.mori.art.museum/jp/mamc/individual/about

お問い合わせ 「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田） E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

「ロン・ミュエク」
同時開催小プログラムのご案内

会期：2026年4月29日（水・祝）－9月23日（水・祝）　**会場**：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）
＊「ロン・ミュエク」展チケットでいずれのプログラムも鑑賞可

MAM COLLECTION

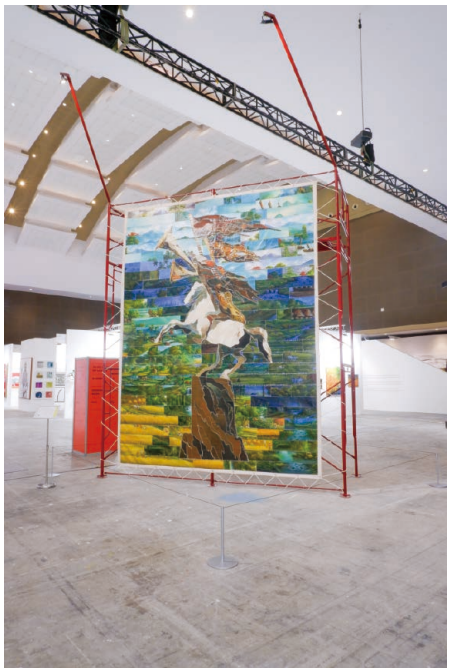
**MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、
多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。**

MAMコレクション022：ティモテウス・アンガワン・クスノ

主催：森美術館
企画：徳山拓一（森美術館シニア・キュレーター）

ティモテウス・アンガワン・クスノ（1989年インドネシア・ジョグジャカルタ生まれ、アムステルダム在住）は、植民地主義の歴史とその記憶をめぐる問いを、映像・写真・インスタレーションを横断した実践を通じて探究するアーティストです。「MAMコレクション022」では、森美術館コレクションの《ノスタルジーの解体》（2024年）に最新映像作品を含む2点を加え、クスノの多様な実践を紹介します。

クスノの作品は、正史の記述が内包する権力構造と恣意的な操作を批判的に検証しながら、フィクションとドキュメンタリーの境界を意図的に撹乱することで、「歴史的真実」の脆弱性を問い直します。



ティモテウス・アンガワン・クスノ
《ノスタルジーの解体》
2024年
ミクストメディア
東南アジア・コレクターズ・サークル（SEACC）2024年購入
Photo courtesy: kohesi Initiatives

MAM SCREEN

**MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから
選りすぐりのシングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。**

MAMスクリーン023：ジョシュ・クライン

主催：森美術館
企画：ヴィクター・ワン（森美術館アジャンクト・キュレーター）

ジョシュ・クライン（1979年、米国フィラデルフィア生まれ、ニューヨーク在住）の連作「回収・貯留」から、《回収・貯留：ガソリン》（2023年）と《回収・貯留：タバコ》（2023年）を日本で初めて公開します。両作品は燃焼に関わる日常的な行為に焦点を当て、石油とタバコを、気候危機の根底にある採掘、帝国主義、産業化の歴史へとつなげています。作品のタイトルは、気候危機への解決策として提案されている実験的な技術「二酸化炭素の回収・貯留」を指しています。テクノロジーによる解決策が、社会的・歴史的・環境的なダメージを本当に封じ込められるのかを問いかけます。

ジョシュ・クライン　《回収・貯留：ガソリン》　2023年
ビデオ、カラー、サウンド　14分25秒
Courtesy: Lisson Gallery; 47 Canal.

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

MAM RESEARCH

MAMリサーチは、アジアの現代美術を中心に特定の作家や動向に着目し、歴史的、社会的な文脈とともに考える資料展示です。

MAMリサーチ012：
ディアスポラ・メモリー ―境界を越えて生きるコリアン・アーティスト

主催：森美術館
企画：趙純恵（森美術館アソシエイト・キュレーター）
企画協力：金惠信（南城美術館館長、沖縄県立芸術大学客員教授）、上田雄三（Gallery Q）

韓国から異国へと渡ったクァク・インシク（郭仁植）、ソン・ヒョンスク（宋賢淑）、韓国にルーツを持つアレクサンダー・ウーガイの作品と関連資料を通じて、20世紀から21世紀におけるコリアン・ディアスポラ(※)・アーティストの軌跡をたどります。国家と個人の記憶、移住とアイデンティティ、故郷と異郷の揺らぎを独自に探求してきた3名の実践から、境界を越えて重なる記憶を新たな視点で捉え直します。

※歴史の力に押し出されるように、あるいは生きるための選択として生まれた土地や国を離れ、異国へと移住・定住した人々やその子孫のこと

（左から）
ポートレート：クァク・インシク（郭仁植）　撮影：片山摂三　画像提供：GalleryQ
ポートレート：アレクサンダー・ウーガイ
ポートレート：ソン・ヒョンスク（宋賢淑）　撮影：Timo Ohler　画像提供：Gallery Sprüth Mager

同時開催小プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 広報
お問い合わせフォーム：https://rjpb.f.msgs.jp/n/form/rjpb/YrQPYWVha6-dtL7PnD5MU

お問い合わせ　「ロン・ミュエク」展 広報事務局（共同ピーアール内）：幡井、上田、伊原
Tel: 070-4303-7234（幡井）、080-2573-6816（上田）　E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp